

令和3年度第1回富山県環境影響評価技術審査会 議事録

1 日 時 令和3年10月15日（金）14時から15時30分まで

2 場 所 富山県民会館701号室

3 出席者

(1) 委員 青木委員、奥委員、加賀谷委員、楠井委員、五箇委員、手計委員、中村委員、南部委員、布村委員、本江委員、和田委員（欠席：大藤委員）

※新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、楠井委員及び布村委員以外の委員はウェブ会議ツールにより出席

(2) 事業者 北陸電力株式会社再生可能エネルギー一部開発推進室事業企画チーム 中村統括課長、宮脇課長 他

(3) 事務局 林生活環境文化部次長、中島参事・環境政策課長、富士原自然保護課長、中山環境保全課長 他

4 議決事項並びに議事の経過の概要及びその結果

(1) 富山県環境影響評価技術審査会の会長選任について

- ・楠井委員が委員の互選により会長に選任された。
- ・加賀谷委員が楠井会長から会長職務代理者に指名された。

(2) (仮称) あさひ風力発電事業に係る計画段階環境配慮書について

(事務局) 資料説明

【資料2】環境影響評価制度について

【資料3】環境影響評価法に基づく環境影響評価の手続き

(事業者) 資料説明

【資料4】(仮称) あさひ風力発電事業に係る計画段階環境配慮書について（北陸電力株式会社）

(事業者) 委員から事前に出された質問について回答

(委員)

1点目、今回、「人と自然との触れ合いの活動の場」が計画段階配慮事項に選定されていないが、中部北陸自然歩道が事業実施想定区域と接するような形になっており、配慮すべきだったかと思う。方法書以降で検討されると思うが、この自然歩道以外にも事業実施予定地の中に登山道などがないか、しっかりと把握しておくべき。

2点目、視野の範囲について、最大影響となる地点からの計算となっているが、その地点の標高はどのくらいか、地図上のどこにあるかを示さないと、妥当な可視領域を判断したかわからない。

3点目、視線方向、視野角について、朝日町は舟川べりやヒスイ海岸など観光資源に

力を入れているため、そうしたところへの影響が地元にとっても非常に重要なことになる。地図を見た範囲ではそれほど真ん中になるわけではないという話もよくわかるが、単純に解説板の方向や、人間の視野の60°にこだわらず、現場で活動している人がどれくらいの範囲を見るかという観点で、そこから本当に見えるかどうか、視野に入ってくるかどうか、しっかり点検する必要があると感じている。

4点目、可視領域の範囲の地図を見ると新潟県側、特に親不知、こちらも重要な観光資源だが、このあたりからかなり見えていると思われる。生態系と同様に、景観も県境を越えて影響するので、その点も当然配慮が必要ではないか。

(事業者)

1点目については、風力発電機の位置等を決める際に重要な要素だと思うので、いただいたご意見を踏まえて今後の手続きで確認するなど、きちんと対応していきたい。

2点目について、配慮書段階では風車の位置を示せていないが、現在設置を考えているところに仮配置して、可視領域を計算している。

3点目について、舟川べり、ヒスイ海岸等、観光資源への影響については、弊社としても認識している。朝日町も同様の認識で、これまでの説明の中でも、ご意見をいただいている。今後、フォトモンタージュを作成して、視野角60°にこだわらず、見え方を考えていく必要があると考えている。

舟川べりについては、風車をどこに置くかにもよるが、眺望景観の方向とずれており、距離も少し離れている。また、現地から見るとごみ焼却施設等の後ろ側に風車が見えるような位置関係となっている。いずれにせよ、きちんとフォトモンタージュを作成して評価をしていく。

最後に県境、親不知からの景観については、現在検討中の風車の仕様と、仮の設置位置に配置して評価している。現時点で親不知からは視認できないとみているが、海方向に行くと見えるような評価となっている。新潟県にも配慮書は参考送付しているが、新潟県の意見も踏まえて評価していきたい。

(委員)

1点目、垂直見込角が結構大きく、周りの学校、集落、名勝、社会教育の場所などから、相当大きな仰角があると思う。これは環境省が定めた技術的ガイドラインからかなり乖離があるのではと思うが、実際にはフォトモンタージュで住民に説明するとのことだが、乗り切れるのか。

2点目、鳥の衝突については、渡り鳥やクマタカの生息について、専門家に十分聞くということしか解決策はない。このまま「(影響を受ける)可能性がある」だけでは済まないような問題だと思う。

3点目、新潟県境には境川があっても、鳥以外の生物も移動することは可能であるため、そのあたりをもう一度考え直していただきたい。

4点目、工事では相当騒音が出るため、鳥の抱卵期、繁殖期を避けるなどの工夫が必要だと思う。専門家に相談されるのであれば、鳥の衝突の問題と併せて、この点も十分留意していただきたい。また、法面の整備で種子吹付けや植樹をする際に、海外の植物

でなく、国内のもの、できれば北陸地方のものを使用していきたい。

さらに、工事の際に、コンクリートが川に流れると、川の底生生物の中には絶滅してしまうものもあるほか、海にも流入する。そのため、コンクリートの扱いには十分留意してほしい。

(事業者)

1点目については、フォトモンタージュを作成の上、地元住民や朝日町の意見を踏まえながら、きちんと丁寧な説明をして、評価等も実施していきたい。

2点目の鳥の衝突に関しては、今後の現地調査の結果を踏まえて専門家の意見を聞くとともに、国のご意見、審議等を経て、評価をしていく形になる。きちんと対応していきたい。

3点目について、新潟県側の生息動物等への影響ということで、ご指摘いただいた内容を踏まえて今後検討していきたい。

4点目について、工事に関して、鳥類の繁殖期などを配慮した上で、工事工程を検討していく。法面の緑化については、極力在来種で検討していく。コンクリートの周囲への影響についても、工事の検討の際に十分に留意して、必要な対策を行う。

(委員)

環境影響評価というよりは気象学のことだが、今回の場所で風力としてどのぐらいビジネスチャンスがあるのか心配している。また、自然環境への配慮や騒音が大丈夫かなという印象があった。配慮書では気象庁のデータを示されていたと思うので、もう少し環境評価をされたらどうかと思う。

専門外なので教えてほしいのだが、景観の話の中でジオパークの話が出ていたと思う。ジオパークは、ユネスコのジオパークや日本のジオパークがあるが、例えば、風力発電所が建っているとジオパークにならないとか、そういった基準などはあるのか。

(事業者)

風力ビジネスが成り立つのかについて、現在、風況観測を開始したところであり、それも踏まえて、今後検討していきたい。

騒音に関しては、事業実施想定区域から直線距離で約0.5キロのところに民家があり、高低差はあるが、非常に近い場所に存在している。騒音や風車の影については、対象物からの距離が非常に重要であり、今後風車の位置を決める際には、極力、民家から離すほか、今ある最新の機種等を踏まえて、例えば低騒音型の設備を導入していくなど、住民の皆さんが安心できる設備の検討等も実施していきたい。

(事務局)

ジオパークの件については、関係課に確認し、後日回答させていただきたい。

(委員)

風車の設置場所の検討には、いくつかの観点があると思うが、まずは風車を建てる位置が少しずれただけでも発電能力が全然違ってくる。また、騒音など環境への配慮の観点もある。設置場所の検討の際、どちらを優先するのか、どう考えるのか教えてほしい。

(事業者)

当然、経済性も横目に見る必要はあるが、まず環境面が一番大事だと弊社は考えている。まずそこを優先的に考えて、その中で経済的にいい場所を選定していく方針である。

(委員)

地下水や河川水について、水質の面は発言があったが、量に関しては、アセスメントは必要ないのか。工事のやり方によるかもしれないが、地下を改変することになる。富山県は地下水に特に力を入れている。また、そこから涵養される河川水にも量として影響していく。また、下流側の越中宮崎のあたりに温泉が出ると思う。温泉が出るのに深さは関係ない。そういった意味で、アセスメントの必要があるのかないのか、教えてほしい。

(事業者)

風力発電所における計画段階で配慮する事項としては、地下水の量に関する事項を選定するガイドラインにはなっていない。今後、設備を検討する形になるが、地下水を遮断するような構造物等を設置することにはならないと思うので、地下水の流れに影響を与えることはないと考えている。

(委員)

再生可能エネルギーの比率を高めていく必要性は十分わかるが、一方でローカルな生物多様性をいかに損なわないように導入していくかということは大い課題だと思う。その中で、鳥についてはバードストライクの問題をセンシティブティマップや、環境省が公表しているガイドラインに沿って配慮されていると思う。コウモリについても配慮しないといけない種がいくつか挙がっているが、バッドストライクの問題について、何かガイドラインに沿ったようなやり方で評価していく方針があるか聞きたい。ウェブで検索すると、ユーロバットというものがありヨーロッパでは風力発電事業におけるコウモリ類への配慮のためのガイドラインが公表されている。この和訳を見ると森林から200mぐらい離すのが望ましいことなど、いくつかガイドラインが示されているが、今回はこういったことも配慮していただけるのか。

2点目に、ヤードによって改変場所ができると動物の餌場になったりして、さらに誘因を引き起こして、バードストライクやバッドストライクの確率を上げてしまうといったことも、いくつかの事例では指摘されている。そういう改変場所、あるいは誘因効果を低めるような努力が今後求められるのではと思うが、そうしたことへの工夫を今後検討されるのか。

3点目に、ウェブで公開している配慮書がInternet Explorerのブラウザでしか閲覧できないことについて、あと2週間ぐらいで一般の方の意見を受け付ける期間が終了するので、早急に利用頻度の高いブラウザに変更してほしい。

(事業者)

1点目については、今後、方法書で示すことになるが、コウモリに関する調査を実施するということは、方向性として決めている。紹介いただいたヨーロッパのガイドラインなども踏まえて今後調査の手法を検討し、方法書の手続きの中で審議いただきたい。

2点目について、基本的には風車は極力林道から近い適地を選定していくことで、改変面積も可能な限り小さくするよう考えている。いただいたご意見を踏まえて今後検討をしていく。

3点目について、弊社でも調査したが、申し訳ないが配慮書の期間中では切り替えが難しいと考えている。セキュリティの観点で、社内テスト等に多くの時間を要するために対応することは難しい。一般の方からの「見られない」という連絡には、方法をご案内しご確認いただいている。方法書以降については、Internet Explorer以外のブラウザでも閲覧が可能となるよう対応したいと考えている。

(委員)

風力発電が設置される場所は通常より非常に静かな環境なので、環境（基準）レベルを下回ったとしても、やはり非常に気になると思う。特に風車の圧力変動とか騒音レベルの変動が一番苦痛になると聞いているので、ぜひ対策をお願いしたい。

いろんな報告では定格2,000kWの風力発電が1番苦情が多い。今回計画されているのは1基3,300kWぐらいで、だいぶ性能が良くなってきていると思うが、やはり圧力変動などによる影響が危惧される。私が勤務している北九州は非常に風力発電に力を入れており、海岸の埋立地に3,300kWの2基の風力発電を設置して、実際に騒音測定をしている。また、平地のシンプルなモデルもある。そういうデータも有効に使っていただければと思うので紹介させていただく。

方法書では騒音などを測定すると思うが、朝晩の残留騒音を計る予定はあるか。

(事業者)

いただいた内容を踏まえて、今後の方法書以降の調査手法等を検討していきたい。

- ・ 次回の技術審査会は、11月22日（月）に開催することとなった。